



コントロールできること

公立高校後期入試が終わりました。みんなよく頑張りました。全員の合格を願っていますが、もし不本意な結果だった人がいても「もがいた上で、わかった、解けた」という貴重な経験を積んだことに変わりはありません。これからの学びの場面に活かしていきましょう。3年前の卒業生たちも大学受験を終えて結果を報告に来てくれています。大学入試はどの大学のどの学部を選ぶか、受験方法は推薦やAOなのか一般入試なのか、受験科目をどう選択するのか、併願校をどうするのかなど「戦略」ともいえるべきことを考えなければなりません。報告してくれた体験談はそのまま後輩たちにも参考になることでしょう。この塾はその橋渡しの役目を果たしていきたいと思っています。

さて先日、20年も新聞のスポーツ面の記事を書いてきた西村欣也さんが定年にあたり最後のコラムを書いていました。その中で「超一流アスリート取材して生きて教わることがある。例えばイチローと松井秀喜だ。全く違う個性の2人から同じ言葉を聞いたことがある。イチローが首位打者争いをしていた時、ライバルのその日の成績を伝えた。彼の言葉は『愚問ですね。彼の打率は僕にはコントロールできませんから。』松井はヤンキース1年目、出だしてつまずいた。成績があがらない。ニューヨークのメディアは厳しい。『気にならないか』と松井に聞いた。『気にならないですよ。だって彼らの書くことは僕にコントロールできない。』つまり、自分にコントロールできることとできないことを分ける。コントロールできないことに関心を持たない。これは日常生活にも採り入れられる生き方だと思った。」という取材の思い出を寄せています。これはまさに誰にでも採り入れられる考え方ですね。テレビ局の放送時間はコントロールできないけれど、見る見ない・録画するしないは自分で決められます。スマホのゲームでも、Lineのタイムラインでも「今日はここまで」とそこから離れるかどうかは自分でコントロールできること。まあ授業中の睡魔は自分でコントロールするのが難しいかも。でもそこをなんとかすればステップアップ間違いなし！